

防衛省へ確認した事項の回答について

問 1：病院及び災害対処拠点ができることによる平時における入間基地に飛来する航空機の増加見込み。

答え：防衛省による回答は、以下のとおりです。

当該任務の性質上、そのための頻度等を予め想定することは難しいと認識しています。一般論として申し上げれば訓練を計画した場合には、それに伴った航空機の運航の増加は想定されるところです。

他方、自衛隊病院が所在することにより飛来する航空機が増加した事実はなく、入間基地においても同様に病院ができることによる増加はないものと見込んでおります。いずれにしましても、具体的な運用に際しては、周辺への影響を極小化できるよう、最大限努めて参ります。

問 2：病院ができることにより、搬送のための夜間飛行が現状より増えるのではないか。（特に夜間の臨時の飛行も増える可能性があるのではないか。）

答え：防衛省による回答は、以下のとおりです。

当該任務の性質上、そのための頻度等を予め想定することは難しいと認識しています。自衛隊病院が所在することにより飛来する航空機が増加した事実はなく、入間基地においても同様に病院ができることによる増加は無いものと見込んでおります。いずれにしましても、具体的な運用に際しては、周辺への影響を極小化できるよう、最大限努めて参ります。

問 3 工事車両の国道から正門までのルートのは想定は。(伐採・抜根、病院建設工事等で相当数の車両が出入りすることになるが、通学路や生活道路に影響のないよう配慮を頂く必要がある。)

答え：防衛省によれば、工事業者や工事内容等が決まっていない現段階では、ルートについて具体的にお答えすることは難しいとのこと。いずれにしましても工事車両の適切な通行ルートや、時間帯の設定等は、市民の方々の通行の安全に最大限配慮していくとのこととあります。市としましても防衛省に対しては、関係機関と事前に協議した上で、工事を進めるよう要請して参ります。

問 4：平時において訓練場を使用する頻度はどの程度か。(平時は訓練場という位置づけになるものの、常時訓練を行うものとは考えにくい。具体的にどのような頻度で、どのような内容の訓練を行うのか。入間基地の部隊、派遣部隊それぞれ。騒音等の心配はないか)

答：防衛省によれば、訓練という性質上、これを定量的に示すことは難しいとのこと。災害時に派遣が予定される部隊の展開訓練を行うことが想定されますが、輸送機等の離発着については、基本的に飛行場地区を使用すると聞いております。

いずれにしましても、訓練の実施にあたっては、周辺への影響を局限できるよう配慮すると共に、訓練計画の策定にあたっては、市民の方々による運動場の利用要望にも可能な限り配慮するよう要請して参ります。